

## 第2回学校評議員会・コンソーシアム合同会議 議事録

期日 令和6年2月15日(木)

時間 午後3時00分～午後4時20分

会場 岩手県立久慈東高等学校 会議室

### 1 開会(副校長)

### 2 校長挨拶(校長)

日頃から本校の活動に対して多大なる御支援、御協力、御指導をいただいていることに心から感謝申し上げます。

今年度は、年度初めから通常と同様の形に戻り、様々な行事ができています。現在、新型コロナウイルスやインフルエンザが流行っている。引き続き気をつけながら教育活動を推進していきたい。

3年生の進路状況について、就職希望は公務員も含め、67名が内定している。進学希望については、公立大学を含む四年制大学の11名の合格をはじめ、順調に進学先を決めている。

学校の近況では、全学年が後期末考査を終了し、生徒たちも少し安心しているところである。これから成績が確定し、1、2年生はいわゆる進級、3年生は3月1日の卒業式に向けてゴールが見えてきた。

高校入試については、一般入試の出願が始まっている。調整前の結果が公表され、119名の出願があった。本校に入学を希望する中学生がいるということをも有難く思っているが、近年続いている志願者の減少を重く受け止め、学校の魅力化の取組を進めていかなければいけない。

本校は久慈工業高校との統合を進めている。検討会議を4回開く中で、県教委が久慈翔北高等学校を校名案として発表しているが、来年度の議会で正式名称となる。校歌については、久慈地域に在住の宇部京子氏に作詞を、久慈地域の中学校に勤めた経験のある太田代政男氏に作曲を依頼しているところである。制服や校章については、今年度中に決定できるよう進めている。統合検討会議は4回で終わり、今後は統合準備委員会を設置し、統合に向けた具体的な内容について職員を中心に協議し、準備を進めていく。

本日の会議は、本校の活動について説明を申し上げ、その上で委員の方々から質問や意見をいただきたい。説明に直接関わらない質問でも構わないので、本校の教育活動の充実に資するため、活発な議論をいただきたい。

### 3 報告

#### (1) 今年度の成果と課題等

##### ア 各課より

##### (ア) 総務課(総務主任)

資料4ページの通り報告。

##### (イ) 教務課(教務主任)

資料5～7ページの通り報告。

##### (ウ) 生徒指導課(生徒指導主事)

資料8～9ページの通り報告。

(エ) 進路指導課（進路指導主事）

資料 10～11 ページの通り報告。

(2) 学校評価アンケート結果について（副校長）

資料 12～15 ページの通り報告。

(3) 部活動等の活動状況について（副校長）

資料 16～21 ページの通り報告。

(4) スクール・ポリシーについて（副校長）

資料 22～26 ページの通り報告。

(5) 久慈地区新設高等学校統合検討について（副校長）

資料 27～28 ページの通り報告。

#### 4 各委員より

(1) 御助言及び御提言等

・ (A委員)

部活動について、生徒の加入率はどのくらいか。中学校であれば、ステップを踏み、地域に受け皿があるような活動をしているのであれば、それを部活動と認め、学校にある部には加入しなくても良いという形にしている。学校が終わり、何の活動もせず下校する生徒を心配する声もあるため、そのような対応をとっている。

〈回答〉4月当初は、任意加入であることを公表した上で、100%加入していた。担任からは、進路のことも考え、活動が合わなければ転部して活動を続ける道もあると話している。現在では、部に籍を置きながら参加はしないという生徒も出てきているが、加入率は90パーセントを超えている。（生徒指導主事）

〈補足〉自転車について、情報提供。通学距離に関係なく自転車通学を許可しているが、ヘルメットに関して、頭を守るものであればどのようなものでも可という指導にしている。引き続き使用できるのであれば、新しいのを買わなくても良くなる。（A委員）

〈関連〉様々な中学校から、頭を守ればどのようなものでも可とする指導をしていると話伺っている。同様の形で進めたい。（生徒指導主事）

・ (B委員)

人口が減少し子どもの数が減っているが、系列の振り分けはどうしているのか。点数を決めて振り分けているのか。

〈回答〉教員側が振り分けることはしていない。総合学科として入学し、1年は同じ授業を受ける。基本的には生徒の希望によって系列を選び、2年次からは各系列に分かれて授業を受けるということになる。（教務主任）

・ (B委員)

系列の選択人数が偏ることや、人数を調整するような作業はあるのか。

〈回答〉系列毎に教員の人数の問題もあるため、希望者が多い場合には、面談をした上で調整する場合もある。年度によって異なるが、およそ半数が、情報ビジネス系列を希望している。現在の1, 2年生では、進学を目指して人文自然系列を選択する生徒が多くなっている。（教務主任）

(補足) 企業側としては、IT人材が不足しているところであり、高度な技術や知識を備えた人材にはニーズがあると思われるので、ぜひ育てていただきたい。(B委員)

・(C委員)

人口減少の問題が出てきており、地元に残ったり、戻ってきたりというところで、魅力を作ってかなければならない。学校側でも、地域に根ざすようなことを教えてもらいたい。

・(D委員)

不登校や引きこもりのご家族と話をしたときに、「夢を見ている子どもが少ない」「なりたい職業自体が話せない子どもが多い」「親が尋ねても何がしたいかがわかっていない」という状況が多いようである。企業体験等に行ったとき、企業では何かを体験させることがあるのか、それとも、ガイダンスのようなものとなっているのか。

・(A委員)

中学校では、市全体がキャリアオーケストラとして、様々な企業の話を知っている。中学校2年生は3日間の職場体験活動で、企業に依頼して活動させている。そのような活動の中で、本当に仕事に対する思いができたかどうかはわからないが、キャリア教育に関しては、久慈市は力を入れていると思う。その中で、夢や希望を持っていない子、違う思いを持っている子に寄り添っていきたいという願いを持っている。

・(B委員)

企業の説明会に東高校の生徒が参加していたが、会社や仕事の説明の後、職場を見学してもらった。事務系の仕事の他に、ガスボンベを回して移動させる体験をさせた。来年度は、ガス管を切る作業やガス配管を組むなど、体験をしてもらう内容を増やそうと考えている。話を聞くだけというのは辛いので、なるべくさわったり、体験したり、感想を聞いたり、企業と生徒がキャッチボールできるような会話も含め、これから改善していきたい。

・(C委員)

説明が難しい仕事について、ドローンを飛ばしたり、デジタル技術やCADを体験でさわらせながら、図面を書いていることや地形を測っていることを教えている。興味を持ってもらいたいが、なかなか興味を持ってもらえていない。

・(D委員)

話を聞いているだけでは、憧れが生まれのではないかと。皆さんの話を聞いて、体験させることはとても大切なことであると感じたので、企業側の方の話になるかと思うが、職業体験を他の企業でも実施してもらいたい。

・(E委員)

東高校は総合学科で、今度工業高校と統合することにより、コミュニティが固定されないという点において、社会に出る生徒にとって良好な環境である。進路決定について、多様な生徒に対応するためにも、見通しを持ち、なるべく早めに取り組むことが大切だと考える。これから社会に出る高校生には、課題解決能力や自ら課題を見つける力を身につけてほしい。

卒業後、就職や進学をどうするかという話題が多くなるが、生徒や保護者にとって一番充足感を得られるのは今どうなのかである。手間や時間はかかるが、この統合はチャ

ンスだと考えている。人と力を合わせ、仲良く、明るく元気に過ごす大人の姿を見せていくことで、生徒がこのコミュニティに身を置きたいと思える体験を学校の中でできると思う。

系列の活動や部活動の中で、柔軟に対応して人間関係を構築したり、円滑に実施したりする能力が身につく。自分が今いる位置を確かめ、そこから見通しをもって未来創造能力を身につけることができる学校だと考えているので、期待しながら応援させてもらいたい。

先の見えない世の中なので、リターンが明確な道を選択しがちだが、イノベーションも繰り返されているので、臆せずにチャレンジしていけるように育ってくれたら嬉しい。

地域の子どもたちが、東高校の制服を着て、3年かけて成長していく姿に、元気ももらっている。知らないうちに力を与えているということを生徒にも伝えてもらいたい。生徒の命を守っていただける環境を維持してもらいたい。

・ (B 委員)

2年前から農業をやっているが、事業として後継者がいない状況である。社員だけでなく、拓陽支援学校から来てもらった生徒にも手伝ってもらっている。ネギを栽培しているので、ネギを栽培してみたい、機械を使いたいという生徒がいたら、ぜひ来てもらいたい。

・ (A 委員)

新設校に期待しているので、頑張ってもらいたいと思っている。その一方で、久慈工業高校と共に定員割れが起きている現状について、仕方が無いと思いつつ、連結する中学校にも取り組むべき課題があるのではないかと思っている。学校の魅力に関して、発信していくことが大切である。祭りへの参加や、地域の子どもたちとの触れあいなど、マスコミを通じて情報を得ているが、そのような活動は続けてもらいたい。

・ (D 委員)

進路指導課の今後の課題について。離職すること自体が悪いのではなく、企業側にも経験させるような取組も必要であると考えている。新入社員とベテランの社員しかいない会社で、新入社員が十分に仕事を教えてもらえない環境があるという話を聞いた。生徒の中には、打たれ弱い部分も多くあるように感じたので、参考にしてもらいたい。

(2) 学校評価について (副校長)

資料 35 ページの通り説明。

5 その他

(1) 次年度の予定について (副校長)

資料 36 ページの通り説明。

(2) その他

6 閉会のことば (副校長)